



『Blue』

中村佑介／著 飛鳥新社（一般・726）

これは、中村佑介氏の初めての画集です。
レトロだけ新鮮なイラストがたくさん！ あなたも見たことのある絵があるかも。
最後の方には、作者オリジナルの作品が収録されています。索引もながめて、どの作品が何に使用されたのかを見るのも楽しいですよ。

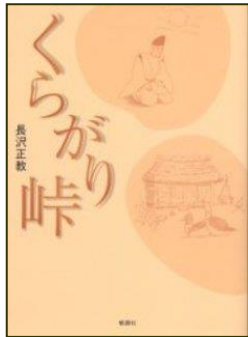


『日本のすごいモノづくり』

日用品～高層ビルまで製造工程&仕組みが面白い』

中村智彦／監修 学研教育出版（一般・502）

今日も日本では様々な“モノ”が作られている。
身近なモノではトイレトーパーやインスタントラーメン、大きなモノでは新幹線や高層ビル、ちょっと変わったところでラッピングバスや海ぶどうといったモノまで……。日本が世界に誇るモノ作りのすごい技術を写真と図解で紹介。



『くらがり峠』

長沢正教／著 郁朋社（児童・ナガ）

くらがり峠は、大阪と奈良をつなぐ古代の峠道の一つ。戦国時代が終わる頃、どろぼうが峠越えて奈良に来る途中に、不思議な犬と老人に出会う表題の「くらがり峠」他14編。

「日本書紀」や「万葉集」「風土記」をもとに、読みやすく現代語訳した創作民話集。

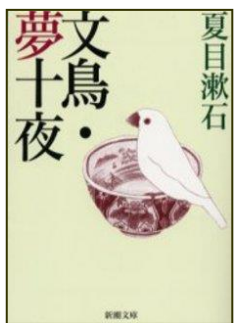


『百瀬、こっちを向いて。』

中田永一／著 祥伝社（一般・ナカ）

尊敬する幼馴染の先輩からの頼みで、彼の浮気相手と嘘の恋人同士を演じることになった凡庸な僕。彼女の名は百瀬陽。野良猫のような目つきをした強気な少女だ。偽の恋人同士として過ごす内、僕はだんだんと百瀬に惹かれていき…。

表題作を含む4編からなる爽やかな恋愛短編集。



『文鳥・夢十夜』

夏目漱石／著 新潮社（一般・Bナツ）

人から勧められて、飼うことになった文鳥。
“淡雪の精”のような姿をした文鳥に、漱石は次第に興味を抱き始め、細かく観察していくようになります。しかし、少しの不注意から、やがて文鳥は亡骸となります…。

文鳥の生と死を通して、著者自らの内面を深くにじませた小品。表題作を含む全7編の作品集。



『学校クエスト ぼくたちの罪』

中松まるは／作 北沢夕芸／絵 童心社（児童・ナカ）

これは、僕が体験した とてもこわいゲームの話です。
3Dゲームの世界を体験する小学生モニターに選ばれた5人。ゲームをクリアしない者には死があたえられる。バーチャル空間で、次々と襲いかかる恐怖や明らかになる秘密。なぜこの5人が選ばれたのか？

5人はついに自らの罪と向き合うことに…。



『ひとり遊びのススメ』

茂木健一郎／著 講談社（児童・Dモ）

脳を本気にさせるのに必要なもの。それは「ひとり遊び」。ただ遊ぶのではない、自分でルールを決めて本気で遊ぶことが大切だ。例えば、大好きなアルバムの曲を最初から最後まで歌ってみる。利き手とは逆の手で絵を描いてみる…等。自分の脳が喜ぶことを、「ひとり遊び」で見つけてみよう。どんどん遊ぶうちに、頭がよくなっていく！

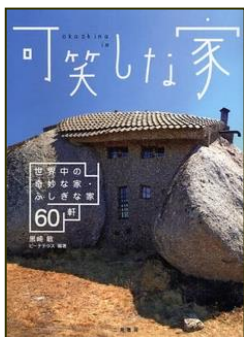


『僕たちの旅の話をしてしよう』

小路幸也／著 メディアファクトリー（ヤング・Bシヨ）

小6の少女・舞が赤い風船につけて飛ばした手紙。受け取ったのは、どれほど遠くのものでも見える健一、どんな匂いもかぎわかる麻里安、あらゆる音が聞こえる隼人。3人は田舎に住む舞に会いに行こうとするが、事件にまきこまれ健一がさらわれる。麻里安と隼人は健一のおじユウジの力を借りて、健一の救出に向かう。

3人はそろって舞に会いに行くことができるのか？



『可笑しな家 世界中の奇妙な家・ふしぎな家60軒』

黒崎敏／編著 ピーチテラス／編著

二見書房（一般・527）

スウェーデンの“妖獣の館”やイギリスの“蝶の家”、アメリカの“靴の家”など「こんな家に住んでいるの？」と思うような、世界中の変てこでユーモラスな家を紹介。間取りはどうなっているのか？そこから見える景色は？などなど興味は尽きません。

あなたはどの家に住みたいですか？



『野生動物のお医者さん』

齊藤慶輔／著 講談社（児童・488）

「かわいそう」という思いだけでは野生動物を相手に仕事をすることはできない。

北海道は釧路湿原の中にある野生動物保護センターで、絶滅の危機に瀕するオジロワシやオオワシといった猛禽類を治療し、「野のものは野へ帰してやりたい」という思いで活動する獣医師が、野生動物の現状を伝える。

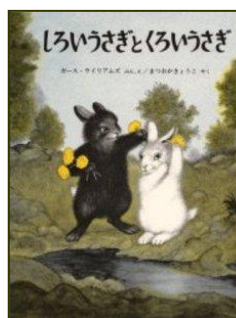


『蜜蜂の家』

加藤幸子／著 理論社（児童・カト）

理恵は東京での生活がいやになり、田舎の養蜂場で働くことにした。

リストカットの傷を持つシングルマザーの経営者、摂食障害の同僚など、様々な人たちとふれあいながら、新しい日々が始まる。



『しろいうさぎとくろいうさぎ』

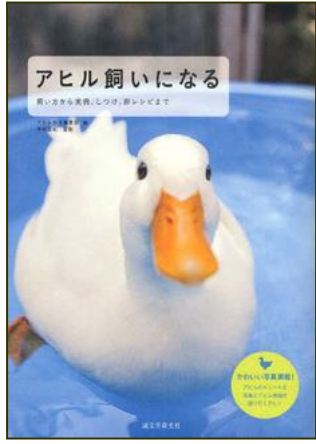
ガス・ウィリアムズ／文・絵

まつおかきょうこ／やく

福音館書店（児童・Eシ）

「うん、ぼく、ちょっとかんがえてたんだ」
広い森の中、2匹の小さなうさぎの真剣な恋物語。墨にほのかな色の絵がうっとりするほど美しい。

原題はThe Rabbits Wedding。



『アヒル飼いになる 飼い方から実例、しつけ、卵レシピまで』

アヒル好き編集部／編 平林美紀／撮影
誠文堂新光社（一般・646）

まっ白で、ぬいぐるみみたいなアヒルはいかが？
庭をアヒル専用にして、池や家も作って、飼い方も調べて。

そしたら、さあ、アヒルをお迎えしよう。
人に懐きやすく、頭も良く、呼ぶと返事もしてくれます。卵はお菓子に使えます。
鳴き声はちょっと大きいけれど、白くてふわふわのアヒルをあなたも飼ってみませんか。

『海に霧 一寺山修司短歌俳句集』

寺山修司／著 集英社（一般・B911.1）



“マッチ擦る つかのま海に 霧ふかし
身捨つるほどの 祖国はありや”
“放課後の ピアノ弾き終え 法師蟬”

短歌や俳句という最も凝縮した詩形式を拠り所として、魂の故郷を求める旅に出た少年時代……。やがて、詩・評論・映画・演劇と多彩な活動の中で自らを問うていった寺山修司。
47歳で逝った著者の、生の序章・短歌俳句選集。

◆ 利用案内 ◆

- ◆ 大和郡山市に在住・在学・在勤の方は、利用者カードをつくる事が出来ます。
- ◆ 5冊まで、2週間借りられます。
- ◆ 貸し出し中の本の予約、所蔵していない本のリクエストが出来ます。
- ◆ 司書が調べもののアシストをします。

探している本が見つからないときは、お気軽にお尋ねください。

- ◆ 図書館のホームページを使って・・・

パスワードを登録 ⇒ 貸出中の本の予約
貸出本の延長（予約が入っている場合は不可）

メールアドレスを登録 ⇒ 予約本の取置をメールでお知らせ

【PC】 <http://www.yamatokoriyama-library.jp/>

【携帯】 <http://www.yamatokoriyama-library.jp/toshoi/>

（QRコードを読み取ってもアクセスできます→）



【開館時間】

- ◆ 土曜日 9:30~21:00 ◆ 土曜日以外 9:30~19:00

【休館日】

- ◆ 毎週火曜日、第1・第3水曜日（祝日にあたる場合は翌日休館）
- ◆ 年末年始 ◆ 特別整理期間

【大和郡山市立図書館】

大和郡山市北部山町211-3 やまと郡山城ホール内

TEL:0743-55-6600

yondoco

中学生・高校生版 第8号 2011.01発行

図書館おすすめの本

() 内は、分類です。

『切り紙昆虫館 ハサミで作ろう!』

今森光彦／作 童心社（児童・75）



紙を折って、切って、広げると、
昆虫が生まれます。

もともとは一枚の紙だった昆虫たち。
今にも動き出しそうなほどリアルに
仕上がります。

ながめても、飾っても楽しい。
読書の間の息抜きにどうぞ。

『WA!』

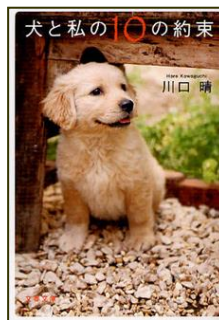
古見きゆう／著 小学館（一般・481）



水中写真家による海の生き物たちの出会いと交流を捉えた写真集。出会いから生まれる『輪』。タイトルにもなっている「WA!」には、「輪」「話」「環」「和」といった、いろいろな『わ』の意味が込められています。挿入されたコメントには、思わず笑ってしまいそう！

『犬と私の10の約束』

川口晴／著 文藝春秋（一般・カワ）



あかりが12才の時、子犬のソックスがやってきました。その時、母は子犬を見て「犬を飼うときは犬と10の約束をしないとイケない」と言いました。その約束にはつづきがありました。あかりは約束を守るのでしょうか？

『ほこりまみれの兄弟』

ローズマリー・サトクリフ／著 乾侑美子／訳



評論社（児童・Nサト）

「ほこりまみれ」とは、旅芸人や巡礼など、家をもたずにさすらい人のこと。16世紀のイギリス。10歳のヒューは愛犬を殺すと脅され、犬と大切な鉢植えと一緒に、養い親の家を逃げ出します。そして、旅役者の一座に拾われて、忘れがたい人々に出会い成長していきます。

人と自然が細やかに描かれた、幸福感にあふれる物語。

『蜜蜂の家』

加藤幸子／著 (児童・カト)

理恵は東京での生活がいやになり、田舎の養蜂場で働くことにした。

リストカットの傷を持つシングルマザーの経営者、摂食障害の同僚など、様々な人たちとふれあいながら、新しい日々が始まる。

『ほこりまみれの兄弟』

ローズマリー・サトクリフ／著 乾侑美子／訳

(児童・Nサト)

舞台は16世紀のイギリス。「ほこりまみれ」とは、旅芸人や巡礼など、家をもたずにさすらう人のこと。

ヒューは十才。愛犬を殺すと脅され、犬と大切な鉢植えと一緒に養い親の家を逃げ出す。旅役者の一座に拾われ「ほこりまみれ」の一員として、さまざまな人に出会い

成長していく。

人の心が豊かな自然とともに細やかに描かれ、幸福感にあふれる物語。